



コライル地区とモハカリ地区の若者向け消火訓練 (バングラデシュ)  
Firefighting training for youth (Bangladesh)

## 要約

- **ミャンマー**では、N連(日本NGO連携無償資金協力事業)の一環としてレチョン村郡の防災リーダー育成が終わり、ナベゴン村の総合防災避難訓練を以て2年次が完了しました。
- **フィリピン**では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け事業の終了が延期となりましたが、引き続き最終イベントの準備を進め、JICA関西からの訪問を受け入れました。
- **バングラデシュ**では寄付を活用し、スラムとその近隣コミュニティから若者を選出し、防災トレーニングを実施しました。
- **日本**では、認定NPO法人格を取得し、神戸本部事務所を移転しました。また、講師派遣もおこなわれました。

## Summary

- The **Myanmar** project supported by Ministry of Foreign Affairs of Government of Japan (2nd year) concluded with a flood simulation drill and certification ceremony, awarding 41 DRR Leaders!
- The completion of the **Philippines** project supported by JICA has been postponed due to COVID-19 crisis, but preparations and a visit by JICA Kansai took place.
- The new **Bangladesh** project kick started. Youth in a slum and its neighboring area were chosen to be trained on DRR.
- In **Japan**, SEEDS Asia became an accredited nonprofit organization, transferred the head office, and provided lectures to JICA training participants.

## 目次 Contents

ミャンマー .....	2
フィリピン .....	4
バングラデシュ .....	6
日本 .....	8
Myanmar .....	10
Philippines .....	12
Bangladesh .....	14
Japan .....	16

### 【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413

EMAIL rep@seedsasia.org

WEBSITE www.seedsasia.org

FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe 658-0072



## ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

### 外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

## 児童文学展への出展

1月初旬、ヒンタダ県インガプー地区のタンボ高等学校にて、児童文学展が開催されました。そこへSEEDS Asiaは防災教材を展示するとともに、「稲むらの火」のミャンマー版や独自教材「プープーちゃんとマングローブ」の紙芝居を紹介しました。プープーちゃんのストーリーはマングローブが津波や高潮のリスク削減に有効であることを伝えるもので、サイクロン・ナルギス(2008年)から10年を迎えた2018年に記念ストーリーとしてSEEDS Asiaが独自に作成しました。

また、消防局員の方にご協力頂き、SEEDS Asia作成のカードゲームを用いながら、初期消火の方法や火事からの身の守り方について、子ども達にお話をさせて頂きました。この文学展にはエヤワディ地域の大臣もお越しになっており、SEEDS Asiaの防災教材についてお伝えすることができました。



児童文学展の様子

## 防災リーダー向け視察研修と防災計画作成ワークショップ

外務省による日本NGO連携無償資金協力事業「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業」では、ヒンタダ地区レチオン村郡に属する14の村の代表者を防災リーダーとして研修してきました。1月28日、その一環として、ヒンタダ地区の堤防とその歴史についての視察をおこないました。この研修では、灌漑水利管理局の職員に堤防博物館をご案内頂き、ヒンタダ県全域の洪水と治水の歴史と現状について学びました。ここの展示物は、地形模型図や様々なデータのグラフ、写真、英国統治時代に使用されていた機材や機器、生活用品があり、わかりやすく視覚的に学ぶことができました。人々がエーヤワディ河と共に生きてきた歴史に加え、近年の甚大化・頻発化する洪水について伝えることで、村や人々の協力体制強化や、個人・学校・村での防災計画の見直しを促すことが期待されます。

また、同日、防災計画作成ワークショップも実施しました。この研修には社会福祉救済復興省災害管理局の職員の方に作成のポイントについてご紹介頂き、各学校と村の代表者の間でタイムラインに沿った災害対応について協議し、計画の概要をまとめることができました。



灌漑水利管理局職員から学ぶ防災リーダー研修生たち



防災計画作成ワークショップの様子

## ナバーゴン村にて洪水避難訓練実施！

2月9日、学校兼シェルターを有するナバーゴン村にて洪水避難訓練を実施しました。ナバーゴン村ではナバーゴン村小学校の教員5名を含めた41名の防災委員会に対して様々な災害対応能力向上研修を実施するとともに、ジオラマ模型の作製や水位記録棒及び気象観測機器の設置などにより村の災害リスクの見える化を進めました。

この訓練は防災計画の作成を含めたこれらの取り組みの成果を評価し、今後のさらなる改善点を洗い出すために実施しました。学校だけでなく村民が協力し合う様子が垣間見られました。この様子をまとめたビデオも作成しましたので、QRコードから是非ご覧下さい。



## 防災人材育成センター校長との面談

2月11日、ヒンタダにある社会福祉救済復興省災害管理局の防災人材育成センターの校長を訪問しました。学校・地域防災支援事業について報告し、同センターとの連携強化に向けた協議をするとともに、昨年発生したモン州の土砂災害についてもお話頂きました。日本のような土砂災害警戒判定メッシュ情報が存在しない場所や国で、局地的な場所で発生する土砂災害へのタイムリーな警報を打ち出すことは大変困難です。こうした事情や制約の中で、今後住民が命を守る行動を取るためにはこうした視覚教材を活用したリスクの見える化に加えて、住民同士が危険を回避するための声を掛け合うその土地固有のシグナルを見出すことです。その1つの方法として、昨年発生したモン州での土砂災害の前兆現象がどのようなものであったのか、生き抜いたその地域住民の方々に話を聞くことが、地質調査や土地利用の状況把握と同様に有用ではないかと提案しました。

## 最終ワークショップと防災リーダー合格証授与式！

2月17日、「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業」の最終ワークショップをミャンマー工学連盟、社会福祉救済復興省災害管理局と共に開催しました。ヒンタダ県の県統括官ウー・ミョーアウン氏にご臨席頂き、半年にわたる災害対応能力強化研修を受講し試験に合格した14村の代表者らは満面の笑みで防災リーダー合格証を受け取りました。農作物の刈り入れで忙しい時も、「村の安全のために」と最優先に取り組んできた、すべての参加者と、研修にあたって多大なるご協力を下さったヒンタダ県統括官と教育省、研修をご一緒させて頂いた災害管理局、灌漑水利管理局、気象水門局、消防局、ミャンマー赤十字、ミャンマー工学連盟に心からの敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

この活動を以て、「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業」の2年次事業が完了しました。3月からは3年次として、ナバーゴン村と同様に洪水常襲地にある別の村にて、学校兼シェルターの建設と学校及び地域の防災力向上を目指します。



授与式の様子



## フィリピン

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

### JICA草の根技術協力事業

## 学校訪問とビデオ撮影

1月は各パイロット校を訪問し、事業で期待されている成果が達成されていること最終確認をするとともに、事業内容を取り上げたビデオに用いるインタビューをおこないました。

例えば安全点検の後にどのような改善をおこなったのかについて写真やメールでは伝わらない有機的な情報を説明してもらったり、事業で実施した内容でその後の学校防災に活かされた点を挙げてもらったりなど、これまで3年間の関わりの中で各学校で培われた防災に対するエネルギーが感じられました。

ビデオ向けインタビューでは、「最初の方はパイロット校としての事業への関わりを負担に感じていたけど、その重要性をだんだんわかってきて、今では防災は生き方そのものになりました」とや、「子どもが他所での災害のニュースを見て、『先生、あの身の守り方では不十分ですよ？ 私達、訓練で正しい身の守り方を教えてもらったから知っています』と発言していて、本当に防災が子どもの中に根付いていることがわかりました」など、素晴らしいコメントをたくさんいただきました。プロジェクトビデオは国レベルカンファレンスにて発表予定です。



インタビューの様子

## 国レベルカンファレンスの準備と延期

JICA草の根技術協力事業でおこなっているセブのプロジェクトは2017年に始まり、3年間の活動の集大成として2020年2月に「国レベルカンファレンス」を開催する予定でした。このカンファレンスでは国の政府機関や全国の教育省ディレクター、セブ州内の教育省各職員を招へいし、事業の成果や活動を通じて得たノウハウ、パイロット校が得た教訓などを広く共有することを目指して準備を進めました。

1月15日には発表者のうち、事業の中心的存在である学校防災管理指導チームと、第2回本邦研修参加者がそれぞれ集まり、事業を通じた学びや学校防災管理推進への貢献についての発表内容を協議しました。

しかし新型コロナウイルスの感染拡大防止策として教育省が2月中(その後、再度期間延長)の大きな集会開催を延期する方針を打ち出したため、同カンファレンスも延期となりました。



学校防災管理指導チームの協議



第2回本邦研修参加者の協議

カンファレンスは延期となりましたが、JICA関西の本事業ご担当者が予定通りセブを訪問し、関係者への聞き取りをおこないました。聞き取りに対応したのは教育省第7地方事務所の所長やラプラプ市地区事務所の所長・先行事業の担当者(カリキュラム開発部)及び現行事業の担当者(防災管理コーディネーター)、マリゴンドン国立高校(パイロット校)及びババッグ国立高校(非パイロット校)です。「SEEDS Asiaがいなくなった後、事業の取り組みをどのように持続し展開するのか、計画はありますか?」や「事業でもたらされたポジティブな影響はどのようなものですか?」など、鋭い質問がJICAの担当者から投げられましたが、各者が防災管理への覚悟やSEEDS Asiaに関する素敵なコメントを下さいました。

特にパイロット校ではないババッグ国立高校の教職員たちは、「パイロット校には選ばれなかったけどラプラプ市地区事務所のコーディネーターの呼びかけに応じ、校内でのアドボカシーや防災の取り組みを進めている」という熱意ある発言をしました。ともに校内を歩く中で危険箇所が数か所見られたと言及したところ、「改善点を教えてくれたらすぐに直します!」と言って、熱心にメモをとっていました。「パイロット校のマニュアルが印刷されたら是非私達にも届けて下さい。学校の防災体制を改善したい気持ちはある一方で、私達に必要なのはノウハウなのです」との発言から、今後パイロット校以外の学校への防災管理の展開が期待されます。



JICA関西担当者、教育省ラプラプ市地区事務所防災管理コーディネーター、学校関係者とマリゴンドン国立高校でSchool Watching (校内歩き)



教育省第7地方事務所長と



教育省ラプラプ市地区事務所長と



## バングラデシュ

災害に対して脆弱な地域の若者へのエンパワメントを通じて、安全なまちづくりを目指します。

三井住友銀行ボランティア基金

### 火災に焦点を当てた新事業開始

1月より、ダッカにあるBRAC大学を現地パートナーとした住民の災害対応能力向上支援事業を開始しました。企業からのご寄付を活用するこの事業では、6万人が居住し国内最大のスラムとも言われているコライルスラムと、隣接するモハカリ地区にて、地域コミュニティに近い立場にあり地域に貢献できる資源としての若者の力を活用した防災意識啓発活動の推進を目指し、若者向けの防災研修と、研修を受けた若者による地域での防災意識啓発キャンペーンを、3か月かけて実施します。コライルスラムでは、違法な電気及びガスの使用による漏電、誤ったガスシリンダーの使用、たばこの火の不始末による火事が頻発しており、また人口密集や住民の防災知識の低さといった脆弱性を併せ持っています。隣接するモハカリ地区の住民にとってもコライルスラムで頻発する火災は他人事ではないため、同地区住民の安全の確保も非常に重要な課題です。

1月に実施したフィールド調査では、台所のガスの火を数分間使わない時でもつけっぱなしにしたり、ガスの上部に洗濯物を干したりする習慣が多く見られること、消火器や消火砂などを常備している家庭はほとんどないこと、中には市や区長から消火器が配られた家庭もあるが、ほとんどの住民が使い方を知らなかったり、既に使用期限が過ぎたりしていること、一方で、火災は住民の大きな懸念事項であることが確認されました。



「地域の火災を減らす！」と意気込む参加者



消火訓練の様子

## 若者向け防災研修の実施

研修には、コライルとモハカリ地区より、11人の女性を含む26人の参加が決まりました。2月28日に第1回の研修を実施し、防災の基礎、 Bangladesh における防災関連法、ダッカの災害リスク、北ダッカ市の取り組み、ボランティアについてのセッションを行いました。翌日29日の第2回の研修には消防局から講師を招き、丸1日を使って火事のメカニズム、種類、火事のリスクと防火行動、ダッカにおける近年の火事とその原因について話し合い、さらに初期消火のスキルを1人1人が訓練を通して学びました。それまで、脅威と感じながら何をしていたか分からなかった火災。どうして火事が起きるのか、どうしたら防げるのか、もし起きてしまったらどうしたらいいのか、を具体的で身近な事例とともに学び、参加者は自信をつけた様子でした。また、初めての消火訓練では、楽しみながらも全員が真剣に取り組みました。

3月に実施予定の第3回と4回の研修では、防災まちあるき、コミュニティ防災と家庭での災害への備え、また、家庭訪問を通じた防災意識啓発キャンペーンに向けた準備を行う計画です。参加者は全4回の研修を受けた後、それぞれの地域で家庭訪問を行い、研修で身に着けた知識やスキルを住民に伝えにいきます！



## 日本

国内の災害復興支援や、国内の講師派遣をしています。

### 認定NPO法人になりました！

2月18日、神戸市から認定を受け、SEEDS Asiaは認定NPO法人にバージョンアップしました！

認定NPO法人は、高い公益性がある団体であるということを一定基準により判定されたNPO法人であることを示します。個人、法人ともに、SEEDS Asiaにご寄付を頂いた方々には様々な税制優遇があります。

2006年の設立以降、SEEDS Asiaはたくさんの皆さまに支えて頂きながら、日本を含めたアジアにおける災害に強いまちづくり・人づくりの活動を展開してきました。今回の認定NPO法人格取得も皆さまのご支援、ご協力の賜物です。ここに、改めて様々な形でSEEDS Asiaにご協力下さる方々に、心より感謝申し上げます。



神戸市の認定通知書交付式にて

### 講師派遣（JICA研修）

公益財団法人神戸国際協力交流センター（KIC）さんがコーディネーターをしておられるJICA研修「災害に強いまちづくり戦略」に講師としてお招きいただき、1月30日には防災教育、2月3日には海外のコミュニティ防災の講義を2日間にわたって担当しました。参加者はインド、エジプト、ブラジル、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、セントクリストファー・ネイビスという多様性のある国々から訪日してきたメンバーで、それぞれの国で防災を担当する政府職員の方々です。

国や地域が違っても人間として共通する普遍性と、その国、そのまちが持つ個別性を、どのように大切にしながら計画や訓練と行動の促進に落とし込んでいくか。これはその場その場の手づくりによるカスタマイズがどうして



も必要で、一過性のイベントだけでは成し遂げることができません。知識や技術の提供に留まらず、まちや人を大切にしていくなぎ歩を踏み出す姿勢を育むために必要なことを、研修からヒントを得て帰国後に進めていって欲しいと強く期待しています。📷

## 台風19号復興支援に向けて

2月20日から21日、SEEDS Asiaは台風19号で被災した長野市長沼地区を訪問し、復興に向けたこれからの取り組み支援について連合会会長及び関係者らと協議をおこないました。長沼地区の約2,500人の住民の多くは、仮設住宅等、様々な場所で避難生活を送っています。そこで、自治協議会が中心となり住民主体の復興対策企画委員会を発足し、復興に向けた取り組みを始める段階にあります。

2月20日に行われた自治協議会会長とSEEDS Asiaの協議では、2月2日に実施された住民説明会のアンケートの結果について共有頂き、住民の方々が安心してその生業を引き継ぐことのできる水防・治水の在り方、地域のまちづくり拠点、地域の中の避難所の必要性など、これからのまちの未来をよりよい形で作っていききたいと強く願う住民の希望について聞かせて頂きました。こうしたニーズを踏まえ、SEEDS Asiaはまちの未来を担う子どもたちを含め、豊かな歴史と自然を大切にする、よりよいまちの未来をつくるお手伝いしていく所存です。是非、これからの復興支援に是非ご協力・ご参加頂ければ幸いです！

千曲川の破堤により、住宅や暮らしへの甚大な被害を受けた長野市長沼地区は、川中島合戦が繰り広げられた長沼城の城下町で、北国街道松代道の宿場町として栄えた歴史を持つまちです。浅川と千曲川に挟まれた約6km<sup>2</sup>の範囲には17ものお寺が密集し、幾度にわたる洪水の歴史を刻み継承しながらも、明治時代からその肥沃な土地を活かしたリンゴの生産がおこなわれてきました。

## 本部事務所の移転

3月28日に、神戸本部が新事務所に移転しました。変わらず神戸市東灘区岡本ですが、駅に近くなりました！住所は〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307です。新事務所にてますますパワフルに活動を推進して参ります。近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄り下さい！

電話番号、FAX番号には変更はございません。

(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自宅勤務を導入しています。お越しの前にご連絡を下さい。)

賛助会員・寄付募集

SEEDS Asia では、年間3,000円(ひと月あたり250円以上)のご支援で活動を支えてくださる賛助会員を大募集しています。詳しくはQRコードにて→



研修参加者との記念撮影



自治協議会との協議



まちにある歴史の継承例



**Myanmar** Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness

Funded by Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

## Literature exhibition for children

In early January, a literature exhibition for children was held at a secondary school in Ingapu, Hinthada District. SEEDS Asia was given a booth to introduce its DRR education materials and picture story shows of “Inamura no Hi” and “Phu Phu and the Mangrove”. The latter is a story telling the significance of mangroves in risk reduction of tsunami and storm surge, and was developed in 2018 as a 10th year commemoration of Cyclone Nargis by SEEDS Asia.



Picture story show

The local Fire Services Department also cooperated by teaching children initial fire extinguishing and protection from fires, using another DRR education tool (card game) made by SEEDS Asia. With the presence of the Chief Minister of Ayeyarwaddy Region in the event, it was an honor to offer information on SEEDS Asia’s DRR education tools.

## Field study and disaster management planning workshop for DRR Leaders

In the project supported by Ministry of Foreign Affairs (MOFA) of Government of Japan, called “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township”, DRR Leaders from 14 villages in Leik Chaung Village Tract have undergone training on various topics. On 28th January, a field study was organized to learn about dikes and its history in Hinthada Township. Irrigation and Water Utilization Management Department officials kindly took the trainees to the museum of dikes to introduce the history and current situation of floods and water management in Hinthada Township. Topographic 3D maps, graphs and photos as well as antique equipment and devices used in the British era provided understanding about the history of people’s living with the Ayeyarwady River, and it is expected that updated information about recent severe and frequent flooding will encourage villages, schools and individuals to develop their own disaster response plan and enhance partnerships.



DRR Leaders learning at the museum of dikes

On the same day, a workshop on disaster management planning was held. With the cooperation of officials of the Disaster Management Department, Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, pointers for planning were shared with the participants. Discussions were held between representatives of villages and schools to compile a summary of each of their plans.



Disaster management planning workshop

## Flood simulation drill at Nabekone village

A flood simulation drill was held in Nabekone village utilizing the school-cum-shelter, on 9th February.

Diverse training has taken place in Nabekone village for the 41 Village Disaster Management Committee (VDMC) members including five teachers of Nabekone Basic Education Primary School. Efforts were also made to visualize disaster risks by making 3D topographic models, and installing water level record marking bars and weather observation devices.

To assess the effectiveness and outputs of the series of training and enhance future initiatives, the simulation drill was held. The school and the villagers cooperated in simulating an evacuation and responding to the flood.

The drill is featured in a video. Please visit YouTube through the QR code below:



## Meeting with the Principal of DMTC

On 11th February, SEEDS Asia visited the Principal of the Disaster Management Training Centre (DMTC) in Hinthada District, which is operated by the Disaster Management Department, Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement. While SEEDS Asia discussed updates on its current project and requested for strengthened partnership, the Principal shared lessons learnt from the landslide that occurred in Mon State last year and ongoing initiatives after the disaster. In places where landslide and other sediment-related disasters are hard to detect based on relevant standards, issuance of timely and localized warning is really a challenge. Under those circumstances and limitations, key to encouraging actions to protect lives is visualizing risks with information, education and communication materials and identifying local and indigenous signals where locals call for each other for evacuation.

## Final workshop and Certification Ceremony!

On 17th February, the final workshop of the MOFA project (2nd year) was held in collaboration with the Federation of Myanmar Engineering Society and Department of Disaster Management, Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement. Director Mr. U Myo Aung in Hinthada District also attended the workshop/ceremony to certify the representatives from 14 villages in the Village Tract as “DRR Leaders” who have undergone six months of DRR training. SEEDS Asia extends its sincere thanks to the leaders who prioritized the training for the safety of their villages, and those who have greatly supported the training: Director and Ministry of Education of Hinthada District, Department of Disaster Management, Irrigation and Water Utilization Management Department, Department of Meteorology and Hydrology, Fire Services Department and Federation of Myanmar Engineering Society. With this activity, the MOFA project (2nd year) was completed. Its 3rd year will begin from March 2020, where another flood-prone village will be targeted for school-cum-shelter construction and disaster management skill development.



Certification ceremony



## Philippines

Enhancing school-based disaster risk reduction and management

JICA Grassroots Technical Cooperation

### School visit for activity video

In January, SEEDS Asia visited all the Pilot Schools in Cebu Province to confirm that the expected outputs have been achieved and shoot interviews with the school personnel, which will be featured in a short promotional video on the project. For example, the schools' Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) Teams explained what improvements they had made after safety inspections: these improvements are often difficult to see in photos or letters, and become more resourceful when the actual practitioners can explain dynamically. They also highlighted episodes where the project initiatives were applied and utilized in their school DRRM. The interviews revealed the energy and pride in school-based DRRM learned in each Pilot School in the past three years. Some of the remarks made by them were: "At first, being a Pilot School was a burden on us. However, as time passed by, we came to know the importance of DRRM and now it is a way of life for us.", and "One student told us teachers saying 'I saw a disaster in another part of the country on TV, but their protection was not enough. We learned how to protect ourselves through the drills.'" The video will be launched during the project's National Conference.

### Preparation for and postponement of the National Conference

The Grassroots Technical Cooperation Project in Cebu Province started in 2017, and was expected to end in March 2020, with the National Conference as its concluding event. To share the project outputs, know-how through its activities, and lessons learned at the Pilot Schools, it was planned to invite officials of national government agencies, Regional Directors of Department of Education (DepEd), and local officials of Department of Education in Cebu Province.

On 15th January, presenters for some sessions in the Conference attended meetings respectively. One was the School DRRM Instructing Team (SDRRM-IT) and the other participants of the Japan Study Visit. They discussed their presentations on the learning from the Project and their contribution to school-based disaster risk reduction and management.

However, with the COVID-19 crisis and the DepEd's response to it, activ-



Behind-the-scenes of the promotional video



SDRRM-IT



Japan Study Visit participants

ities including mass gatherings were postponed till the end of February (and later even further) and therefore the National Conference was also postponed.

With the postponement of the Conference, the person in charge of the Project at JICA Kansai, the funding agency, visited Cebu and had interviews with the stakeholders (Regional Director of DepEd Region VII; Superintendent, Chief of Curriculum Implementation Division as the previous Project's focal person, and Division DRRM Coordinator as the current focal person of Lapu-lapu City Schools Division Office; Marigondon National High School as a Pilot School and Babag National High School as a non-Pilot School). Questions such as "Do you have any concrete plan to continue and roll out the Project initiatives after SEEDS Asia leaves Cebu?" and "What were the positive impacts brought about by the Project" were asked by JICA, and the interviewees all answered with their determination to continue DRRM actively, and provided good comments about SEEDS Asia's initiatives.

What was remarkable was that the personnel of Babag National High School was very willing to know about the Project outputs, saying "We were not chosen as a Pilot School of the Division but joined the Division DRRM Coordinator to implement in-school advocacy and other DRRM activities," When SEEDS Asia mentioned some risk areas while walking inside the school premises, the School Head opened her notebook and held her pen, enthusiastically saying "We will take note of this and improve, so tell us what you noticed!" The teachers of Babag National High School and other coordinators said "We are looking forward to the manuals of the Pilot Schools. We are very eager to improve our DRRM, and what we need is how to do so." These words showed how promising it could be to extend DRRM initiatives to non-Pilot Schools.



"School watching" with JICA Kansai, DRRM Coordinator of DepEd Lapu-lapu City Division and school personnel at Marigondon National High School



With Regional Director of DepEd Region VII



With Superintendent of DepEd Lapu-lapu City Division



## Bangladesh

Safe community development through empowering youth in disaster prone areas

SMBC Volunteer Fund

### New project focuses on fire awareness

SEEDS Asia's new project in Dhaka kick started in January with a local partner, BRAC University which was the first university to offer a master's program in disaster management in the country. The project aims to raise DRR awareness through trained local youth as communities' resources in the Korail slum which is the largest slum in the country and home to over 60,000 people and its neighboring Mohakhali area. A four-day training program for the local youth and house-to-house DRR awareness campaign are planned in a project for three months. Korail has experienced frequent fire incidents caused by short circuits due to illegal electricity and gas connection, wrong usage of gas cylinder, and cigarette butts. High population density and lack of awareness among the residence increases the area's fire vulnerability. It is also a serious concern for people living in Mohakhali located next to Korail and it is important to ensure the security of the houses in the area.

In the initial field assessment in January, risky practices such as leaving kitchen gas stoves open even when not using them for a couple of minutes and hanging clothes over the stoves were found. It was also observed that some households received a fire extinguisher from the city and ward office but almost all the people interviewed did not know how to use it and many of those fire extinguishers had expired. On the other hand, people expressed fear and worry about fire risks in their area.



Group photo "We won't let fire happen!"



Firefighting practice

## DRR training for local youth

A total of 26 youth including 11 females were selected to participate in the four-day training. The first day was held on 28th February and the participants learned DRR basics, DRR related laws and plans in Bangladesh, disaster risks in Dhaka, initiatives taken in Dhaka North City Corporation, and volunteerism. On the following day, a resource person from Bangladesh Fire Service and Civil Defense participated. A whole day was spent learning the mechanism of fire, different kinds of fire, risks hidden in our daily life, fire prevention, and recent fire cases in Dhaka. The participants received a hands-on training one by one on how to put out fire using a fire extinguisher and a wet sack. Fire was something to fear for the participants and they would feel helpless till they received the training. However, the participants seemed to have become confident after obtaining the knowledge of fire prevention and firefighting.

The training on day three and day four are scheduled in March and the youth will conduct DRR town watching, and deepen learning about community DRR and household level preparedness. After the training, they will conduct household visits to pass on the DRR knowledge they obtained from the training.



## Japan

Disaster recovery projects and dispatch of staff members as lecturers

### SEEDS Asia is now an accredited non-profit organization!

On 18th February, SEEDS Asia was certified by Kobe City to be an “accredited nonprofit organization”.

Accredited nonprofit organizations are those who have been certified to serve the public interest, based on certain standards.

Since its launch in 2006, SEEDS Asia has been supported by so many of you and has been able to work for human and community development towards disaster resilience in Asia. This accreditation could not have been possible without your help. We would like to express our sincere gratitude to all of you.



Receiving “notice of accreditation” from Kobe City

### Lectures delivered (JICA training)

On 30th January and 3rd February, SEEDS Asia was invited as a lecturer in the JICA training coordinated by Kobe International Center for Cooperation and Communication entitled “Strategy for Resilient Societies to Natural Disasters” and took charge of two sessions namely: DRR Education and Overseas Community-based DRR. Participants were from India, Egypt, Brazil, Bosnia and Herzegovina, Serbia, and Saint Christopher and Nevis, all of them government officials in charge of DRR.

Regardless of difference in nations or regions, there are universal similarities as well as unique characteristics. Key is how to institutionalize these into planning, conduct of drills and other actions. This requires contextual-



ization and cannot be realized just through transient events. It is hoped that through the training sessions, not only transfer of knowledge and skills but also the importance of such attitudes to take a step forward in cherishing communities and people, was understood by the participants.

## Towards Disaster Recovery from the Typhoon Hagibis in Japan

From 20th to 21st February, SEEDS Asia revisited Naganuma District in Nagano City, which was affected by the Typhoon Hagibis. Discussions were held with the chief of a union of local residents' organizations and other key persons. Due to the collapse of the river dike due to flooding, Naganuma District saw considerable damage to residences and livelihoods.

During the recent flooding, many of the residents in the district have now evacuated to temporary houses or other locations. As a result, community organizations established their "Recovery Planning Committee" and are to start off their initiatives towards disaster recovery. The discussion with the chief of the union of local residents revealed the strong wish of residents for a strengthened future for the community. The dialogue has inspired SEEDS Asia to assist them in building their future, both cherishing their rich history and nature, with an emphasis on their children, while at the same time reducing the disaster risks that they face. We greatly appreciate your support too!

Naganuma has faced flooding many times over the past hundred or more years. In fact, the town is a historical place with 17 temples spread over a land area of just six square kilometers. The area has been affected by repeated flooding and these lessons have been passed down over the generations. This repeated flooding has deposited fertile soil in the region since it is sandwiched and eroded by two rivers, which has enabled the district to produce a sweet variety of apple since the Meiji Era (1868–1912).

## SEEDS Asia HQ moves to a new location

On 28th March, SEEDS Asia's Kobe Headquarters office transferred to a new address. Same area as before but closer to the train stations :) The new location is 1-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe. We are hoping to be even more empowered with the new office.

The phone and FAX numbers remain the same.

It is the same locality, but is more accessible from the railway station.



Group photo with participants



Meeting with a local partner



Example of a way to inherit disaster experiences